



金谷川小だより

かなやがわ小フランドの創造

令和2年4月23日
福島市立金谷川小学校
校長 宍戸 与一
児童数 81名

すてきな姿！！

4月7日（火）掃除の時間
無言で黙々と取り組む子どもたち。

2年生から6年生まで、少ない人数ながらも、それぞれの分担箇所を一生懸命掃除していました。

（この時点では、8日からまた臨時休校になるとは知らずに）



休校中の子どもたちに、いま大人ができること

家庭学習のポイント

大人が不安を抱え、イライラしていると、子どもはその状況をすぐに察します。大人が頑張っていると、子どもも頑張ります。大人が我慢していると、子どもも我慢します。だから、まず大人が自分の今の状況をしっかり受け止めて、自分自身を大切にしてほしいものです。自分を大切にできない人は人を支えることも難しくなってきます。大人にとっても、自分を大切にしてくれる誰かがいることが必要なのです。

子どもがストレスを抱えると、幼く振る舞うなどして、エネルギーをためようとしします。赤ちゃん返りのような状態です。いつもより甘えたいと思っていても、なかなかストレートに言えないものです。「だっこして」などと。高学年になっても、何も言わずにお母さんの膝にゴロンと寝転んでくることも。(笑) また、素直な甘えではなく、「肩が痛い」「熱があるかも」などと子どもが言ったときには、「ゲームのやり過ぎでしょ」「熱測って!」と返すのではなく、「痛くなったんだね」「大丈夫?」と肩を撫で、おでこに手を当てるなどしてあげてほしいのです。



子どもたちは、今、とても頑張っていると思います。本当は、寂しいし、怖いし、不安だと思います。普段は、何か心配なことがあっても、友達と遊んでいるときには、心配がどこかに飛んでいくのが子どものたくましさなのですが、1人で家にいてずっとゲームをしている、誰もいない、話す相手がいないという状況では、不安や心配なことが浮かんできると、それが際限なく大きくなってしまいます。そんな時は、まず、子どもが頑張っていることをしっかり認めてあげたいものです。

今、世の中がどのような状況になっているのかを説明したうえで、「じゃあ、なにができる?」と子どもと一緒に考えてみてほしいのです。「いいから勉強してなさい」ではなく、「洗濯物をたたむの手伝って」「一緒に料理してみる?」など、家族の一員として頼りにして、声をかけてほしいのです。

役に立っていると思えることがあれば、子どもは自信を持つことができます。「いい機会だから何かできるようになるといいね」と声をかけることで、子どもたちの希望にもつながっていくと思います。



Forbes を
一部編集